

10月8日時点

最近のBoE金融政策委員の発言等

	委員名	日付	発言
ハト派	Spencer Dale委員 (チーフエコノミスト)	10月2日	「以前のリセッション後に比べ政策の引き締めは恐らく緩慢になる」「これまで景気が急速に回復した時はいつもBoEが利上げしてきたと市場参加者が考えて金利急上昇を織り込んでいるのなら、考え直すべき」「景気回復の状態という点で、米国は英国の約2、3年先を行っている」
	Charles Bean副総裁	8月27日 8月23日 6月25日	「英国の住宅市場でバブルの兆候はなく、問題があるとはみていない」 「ユーロ圏経済の減速といった状況が生じれば、資産買入れを再開する必要があると判断するかもしれない」 「追加的な効果は小さいが、マイナス金利導入には技術的障害はなく選択肢の一つ」(議会への書簡)
	Paul Tucker副総裁 (10/18日退任予定)	9月24日 5月28日	「経済のスラックについて確信が持てず、金融刺激策縮小を急いでいない」「英景気回復は一樣ではないだろう」「投資家の失業率に関する見方は楽観的過ぎる」「フォワードガイダンスをGDPとリンクさせることにメリットがある」 「中銀は経済主体に必要な調整をスムーズに行うための猶予を与えるが、調整を遅れさせる誘惑にもなる」「中銀はできることとできないことを明確にすべき」
	Paul Fisher委員 (市場担当)	10月2日 9月12日 7月16日 6月6日 2月27日	「英景気は回復過程の初期にあり、更に続く必要がある」「米国の短期金利の運動性は行き過ぎ」「住宅市場は勢いを増しつつあるが、バブルの兆候はない」「住宅市場を注視する」 「英経済には大きな余剰生産力が存在」 「金融緩和の巻き戻しは数年先で、政策金利の引上げが最初に行われ、それに対する市場の反応により量的緩和で購入した英国債売却のタイミングを決定、その場合には事前にタイムテーブルを公表するが、売却には6か月程度の長期間をかける」(議会証言) 「現状維持に反対、250億ポンドの債券購入増加に投票」(6月MPC) 「BoEは既に四半期インフレ報告を通じたフォワードガイダンスがある」
	Ben Broadbent委員 (外部委員)	9月29日 9月24日	「我々は金利ではなく、経済を安定化させようとしており、フォワードガイダンスがそのために最善だ」 「景気回復が予想以上に速いペースで進んだ場合、MPCが刺激策終了をより速い時期に検討しても問題ない」「運行するが単体で最も信頼のおける余剰能力の指標である失業率が大幅に低下した場合、実施中の金融緩和の一部解消を検討することが適当」「失業率がもっとゆっくり低下した場合、金融政策のスタンスは更に長期間据え置くことが適切だろう」
	David Miles委員 (外部)	9月30日 9月24日 9月19日 6月26日 6月6日	「失業率7%達成は政策変更に関係せず、今後の方向性を分析し始める地点」「英景気について、初期段階だが楽観の根拠がある」 「英景気に関する最近の情報は圧倒的にポジティブ、2009年以降で最も楽観的」「改善は正常な状態への回帰を意味しない」「大幅な金利上昇が必要との認識は誤り」 「英景気回復はまだ初期段階だが、自律的回復経路に向かいつつある」 「金融政策正常化を急いではならない」「更に需要を下支えるため次の動きとしては追加緩和をすべき」 「現状維持に反対、250億ポンドの債券購入増加に投票」(6月MPC)
	Carney総裁	9月27日 8月30日 8月28日 8月8日 8月7日	「私の見解では、英景気は回復が強まり広範囲になっているため、量的緩和拡大の理由はなく、支持したことはない」「失業率7%は引締めを考え始める目安だ」 「成長回復と失業減少の時期が早まれば早まるほど、金利の正常化も早期に可能になる」「不動産バブルの兆候があれば行動する」 「金融環境が引き締め、景気回復状態が我々の必要とする強い成長に届かないとみられる場合は、更に景気を刺激する措置を取るか、またその最善の方法につき慎重に検討する」「回復が確実になるまでは景気刺激を縮小させないこと、一方で必要ならば一段の措置を取ることをBoEのフォワードガイダンスは明確にしている」 「英経済は記録的に弱かった時期から回復する局面の極めて早期の段階にある」 「刺激策が必要であれば資産購入を更に増加する準備がある」(定例記者会見)
	Martin Weale委員 (外部委員)	8月22日 8月14日 6月25日	「景気が再び低迷すれば量的緩和の拡大に訴える必要性が生じるかもしれない」「タカ派とみなされることは拒否」 金融政策ガイダンス適用継続を左右する条件として挙げられた、インフレ率が今後18-24か月以内に2%のインフレ目標を0.5%以上上回りそうだと判断する場合の、期間を短縮することを求めて、金融政策ガイダンスに関する票決で反対票を投じた(8/1日の金融政策委員会にて。議事要旨で明らかに) 「長期に亘るCPIの目標上振れを十分認識」「総裁よりも幾分インフレリスクへの懸念が強い」(議会証言にて)
	Ian McCafferty委員 (外部委員)	9月12日 6月14日	「英景気回復は持続可能である兆候」「インフレは想定よりゆっくりとしか低下しない可能性」「最近の短期金利の上昇の一部は正当化される」 「ポンド安が金融政策委員会の物価安定へのコミットメントへの懸念によるものであるとすれば、私は金融緩和を行う理由は弱いと強く信じる」「現在の金融緩和の程度は適切」
タカ派			

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。